グループホームさくら

（別紙4）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0972700330		
法人名	社会福祉法人二宮会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	栃木県真岡市石島463		
自己評価作成日	平成22年9月22日	評価結果市町村受理日	平成22年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1－10－6
訪問調査日	平成22年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・利用者同士が仲良く、助け合い共に生活されている。
・自由にゆったりとした時間を過ごしている。
・併設施設との連携により行事等も充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当ホームは市南部、旧二宮町の周囲を田園地帯に囲まれた静かな環境に位置している。敷地内には同法人の特別養護老人ホーム等が併設されており、災害時の連携や日々の支援においても協力体制が構築されている。地域との交流も法人全体で取り組んでおり、地域行事への参加や法人の催しには地域住民に参加を呼掛ける等、地域との相互交流に努めている。ホームでは入居者が自宅に居た時と同じように過ごせるよう、家族や地域との連携を図りながら、利用者本位の生活を支援している。また、入居者の意向や尊厳にも配慮しており、運営者自らが職員の指導にあたっている他、「心のノート」を作成して入居者の生活歴、好みの事柄、趣味趣向等の把握に努め、そこで把握した事柄らを支援に活かす等、本人本位に合わせた支援に取り組んでいるホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念と、全職員で考えたグループホーム独自の理念をケア室に掲示している。 「心身ともに健康で、家族・地域との連携を密にし、楽しみと希望の持てる生活が送れるようサポートいたします」	ホームでは入居者が自宅に居た時と同じように過ごせるよう、家族や地域との連携を図りながら、利用者本位の生活を支援していく事を目的とした理念をつくりあげている。また、毎年、全職員で協議しながら理念の実践状況の確認や見直しにも取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。幼稚園の運動会や地元の小中学校との交流、地域行事参加・文化保存会との交流も行っている。 施設での三大行事には、地域の方々にも参加して頂いている。	法人として自治会に加入しており、神社での祭り等の地域行事への参加や近隣児童との交流にも取り組んでいる。法人で実施している納涼祭等には地域住民の参加もあり、ホームも含めて地域の一員として認められており、積極的に交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域内の年通行事に入居者と共に参加し、利用者の実態を説明、又は意見を多く聞き、出来ることであればアドバイスを家族介護に生かして頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市福祉課職員・地域区長・民生委員・地区老人会長・入居者代表・家族参加のもと、奇数月に開催しており、活動報告や外部評価等の実施状況について報告し意見交換している。	運営推進会議は入居者及び家族、地域の関係者や市職員等をメンバーに2カ月毎に開催している。会議ではホームから行事や事業報告の他に、地域からの情報提供や館内設備の提案がある等、意見や提案をサービス向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話連絡や市に出向いた際に、現状報告したり協力依頼している。	市職員とは制度や運営上の相談を気軽に行える関係である他、合併に伴い市内のグループホーム間での交流も始まり、その中でも市職員との意見交換等が行われる等、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会・研修会を実施している。 ケア室内に掲示があり、全職員が周知し実施している。玄関等の出入り口は、開錠している。	法人全体で身体拘束防止に取り組んでおり、研修会等で身体拘束に該当する行為への理解や防止方法について学んでいる。他事業所で不祥事等があった場合には、全職員に周知して注意を呼掛けている。玄関の鍵は職員の見守りにより施錠しないケアを実践している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修や部署会議・職員研修会において学んでいる。意見交換話し合いを持ち、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修にて学んだり、関係機関と連絡を取り合い、助言を頂いている。施設内にパンフレットを掲示している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約時には、ご家族ら二名以上に同席して頂き、管理者・計画作成者と共に説明・話し合いを実施し、ご理解を頂いている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に声をかけたり、家族会議にて意見を頂くなどしている。運営推進会議・職員会議にて報告し、それらの意見をもとに行事等企画している。	家族にはホームでの行事や日々の面会時の他に家族会議や運営推進会議の場等でも意見や要望を確認するようにしている。館内の様子を把握してもらい、入居者の状況を話すことにより、様々なアドバイスや意見を出してもらい、運営に反映させている。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議及び、日常的に現場の意見を聞き、検討し出来るものより実施している。	職員は運営者や管理者に日々の業務の中で意見や提案を表わす機会があり、日々、入居者と接している職員の意見等は尊重するようにしており、出された提案等は迅速に検討し、対応できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員より利用者の状況等に関して、日常気づいた点を報告を受け、より良い生活空間を保てるよう、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の職種に応じて、研修会に率先して参加させるよう、努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所へ訪問し、介護について話し合いを持ち、サービス提供への関心度を向上させている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時や面接時に話しを伺い、表情や態度にも注目し不安等汲み取るように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時や面接時に状況を伺い、気持ちを受け入れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	適切なサービスが受けられるよう、本人・家族の話を良く聴き、助言等を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事活動や園芸活動を行い、利用者の築き上げてきた人生経験を活かして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への協力依頼や現状報告等行い、支えあえるような相互関係作りを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと、馴染みの床屋・歯科に行ったり、併設施設利用の友人に会いに行く機会を設けたりしている。 馴染みの場所を事前に聞いておき、ドライブ等実施し出会った方々と話す機会を持っている。	ホームでは入居者が地域で慣れ親しんだ馴染みの関係が継続出来るように、家族の協力も得ながら支援に取り組んでいる。併設施設に知人が利用している場合には会いに出掛けたり、本人の要望等により馴染みの場所等にも訪問している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事（外食・ドライブ）・レクリエーションを通して、利用者同士の関係を深めている。利用者同士の支えあいの場面も多い。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院・退所後においても、家族より電話等にて相談があった場合には情報提供・助言等行っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の暮らし方が継続できるよう、本人・家族から話しを聞き、様々な感情・希望・意向を汲み取り検討している。	入居時等に本人の生活歴や趣味趣向等を家族に確認している他、日々の支援の中から気付いた点や好みの物事を個別に記入する「心のカルテ」を作成し、全職員で共有しながら、入居者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面接時や契約時に生活歴を伺ったり、通常の面会時にも情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌やケース記録等に記入し、現状把握・振り返りも行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一回、又は必要に応じケース会議を行い介護計画に活かしている。 面会時にも家族に話しを聞いている。	入居時に本人や家族の要望や情報を元に介護計画を作成し、毎月のモニタリングや3カ月毎の定期的な見直しを行っている。また、入居者の状態に大きな変化が見られた場合等には、主治医の意見を参考に職員間で協議を行い見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケース記録記入し、毎月ごとにモニタリングを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設があり、利用者家族の状況・要望に応じて相談、協力を得ている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市内のスーパーへ買い物に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院や、個々に応じた専門の医療機関と協力し、適切な医療が受けられるようにしている。	入居時にホームの協力病院にかかりつけ医を変更する入居者が多い。通院は原則として家族に付添いをお願いしているが、場合によっては職員が付き添っている。週2回、協力医の往診がある他、週1回、併設施設の看護師が入居者の状況の確認に来てくれている等、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設より看護師が来て、健康チェックしており、相談・助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	積極的に情報提供している。家族と連絡を取り合ったり、医療機関と情報を共有したりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現状について、常に家族に報告し、予想される状態においても理解を得るようにしている。 職員全員で方針の検討をしている。	重度化や終末期も入居者や家族の要望があれば出来る限りホームでの支援を考えているが、医療行為が必要になった場合は、主治医とも相談のうえで入院や特養に移ってもらっている。看取りは現状の職員体制では困難な状況にあり、今後の課題でもある。	今後、慣れ親しんだ当ホームで最期を希望する入居者も出てくると思われることから、往診してくれる医師や併設施設の看護師等とも連携を図りながら、ホームにおける終末期支援の方針について検討していくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を実施している。 緊急時の対応マニュアルが、ケア室に掲示されている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。 消防関係者との連携を図っている。	年2回、併設する特養等と法人全体での消防訓練を実施している他、ホーム独自でも夜間時等を想定した消防訓練を年1回実施している。立地条件から近隣住民の協力は難しい状況ではあるが、併設施設間での役割分担や連携体制が構築されており、有事の際にはスムーズに対応が出来るように取り組んでいる。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の性格を配慮し声掛けを行い、個別に対応したり、場所や環境にも配慮している。	年長者である入居者には常に尊厳を持って接するようにしており、言葉遣いや呼び方等に注意を払っている。毎月の職員会議で接遇の確認に努めている他、日々の支援の中でも運営者自らが職員の指導に取組んでいる。	現在、トイレの扉がカーテンとなっているが、音や臭い等、本人の羞恥心も考慮しながら適切な支援が行えるよう検討を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中で希望を聞いたり、本人が気軽に意見を言えるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ、希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい服装や髪型が出来るよう、柔軟に対応している。クリーム・ヘアネット・ヘアピン等購入し、美容等行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の盛り付けや、おやつ作り等個々に合わせた力を活かし行っている。 職員も食卓を共にしている。	食事は今年4月から職員の負担軽減や食中毒対策等の理由から宅配業者の外注に変更している。調理されたものをボイルし、盛りつけるものであり、味や量は今までと変わりないものである。職員は入居者と同じ物を会話をたのしみながら食べている他、おやつは手作りのものを入居者と作るようにしている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じて、食事量や形態を工夫している。献立は管理栄養士（委託業者）が作成している。 水分量を把握し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方には、毎食後声掛け行い口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表において、排泄パターンを把握し対応している。	排泄チェック表により、個別の排泄状況や排泄パターンの把握に努めており、さりげない声かけや誘導により、トイレでの排泄を支援している。失禁時には他の入居者にわからないよう対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事・水分量・運動にて対応している。 医師・看護師との連携を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決め、実施している。 個々の希望に合わせ、湯の温度や浴室環境を整えている。	週2回、午後の時間帯を入浴時間として支援しており、入浴日以外でも要望があれば入浴できるようにしている。家族からの提案により深さのある浴槽を浅いものに変更する等、入居者が負担無く入浴できるよう工夫している。	現在の入浴回数等が妥当なものか職員で協議するとともに、入居者や家族の意見も参考にしながら検討していく取組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムを整えたり、居室内環境にも配慮している。不安の訴え時にはそばに寄り添い、話しを聞いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、把握に努めている。変化があれば、記録・確認している。 医師・看護師との連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	園芸活動や趣味活動、レクレーション・行事等行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の方と外出されたり、利用者の意見・希望等を聞いて、実施している。	天気が良い日には近所への散歩や併設施設のレクリエーションに出掛けている他、月2回は入居者の希望する買い物や外食、ドライブにも出掛ける等、家族とも協力しながら外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望また、管理可能な方には所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話がかけられるよう支援している。家族から手紙が届くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花を飾ったり、掲示物を変えている。 トイレ等は清潔感を重視している。	共用空間は清掃が行き届き、明るい空間に季節の飾付けや入居者の手工芸品が飾られる等、居心地の良い生活空間をつくりあげている。また、小上がりの和室には使い込まれた家具や日本人形等が置かれ、郷愁を誘う空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子等を設置し、自由に過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にも協力を得ながら、本人の使い慣れた物・好みの物を持ち込んで頂いている。	居室は全室畳敷の和室となっており、木目調の天井や落ちついた壁紙等により、自宅に居るような感覚で過ごすことが出来るよう配慮されている。居室内には入居者が使い慣れた家具類や小物類が持込まれており、各々が個性的で快適な居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	時間・日付等分かりやすいようにしている。 各所に手すりを設置している。トイレや居室の場所もわかりやすいよう、工夫している。		